



古く書少集

十二

記 和 文

號 8 8

冊 20冊の内

文庫





古今著聞集卷第十八

持夷 第十八

天長天皇十三年天智天皇御大宴在喚<sup>いん</sup>らる有  
 持夷ありしときそのけり相といひしじや  
 憲章<sup>けんしょう</sup>と各とあうくあう禁とてさ平ふん小  
 野<sup>の</sup>まのじう<sup>じう</sup>推<sup>おし</sup>されんとの双六の志らふ者ま  
 ふりてのみあはぬの<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>なりま<sup>ま</sup>る  
 ひう<sup>ひう</sup>との承<sup>承</sup>懐<sup>懐</sup>くは<sup>は</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>執<sup>執</sup>りて  
 延和元年九月亦同日右少弁<sup>すくべん</sup>法<sup>法</sup>貴<sup>貴</sup>寛<sup>寛</sup>道<sup>道</sup>結<sup>結</sup>伴<sup>伴</sup>とて  
 圓基<sup>えんき</sup>とら<sup>とら</sup>る<sup>る</sup>唐<sup>たう</sup>後<sup>後</sup>定<sup>定</sup>版<sup>版</sup>盤<sup>盤</sup>とら<sup>とら</sup>る<sup>る</sup>



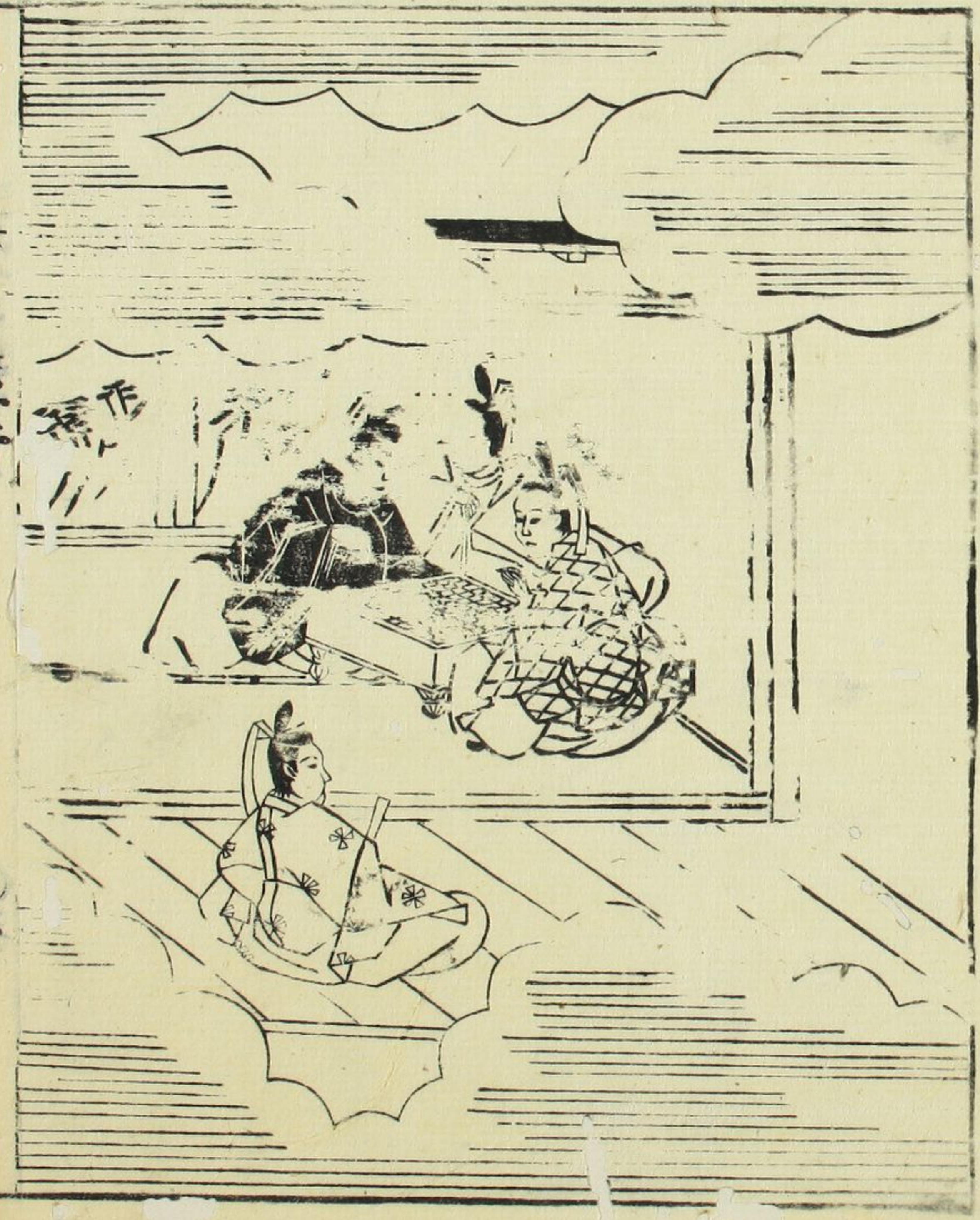
その實運揚く給ふり暫代ありお帳の務員徳子  
うりをゆやも同日時基勝法所はあて園基と傳  
て銀の生利うら給りてかり生利は面目ふひく死  
き家とれた権よ入るなりとらんいひまは  
兼平七年正月十日有実占家の會中務に交れり  
海よりくるに中務は右大臣と園基れとまけ  
り基自の浅きそをさるじうんか根れこれの儀  
ありと給物ふりてくるにそ近代はなきがひんそ  
傳りてせ

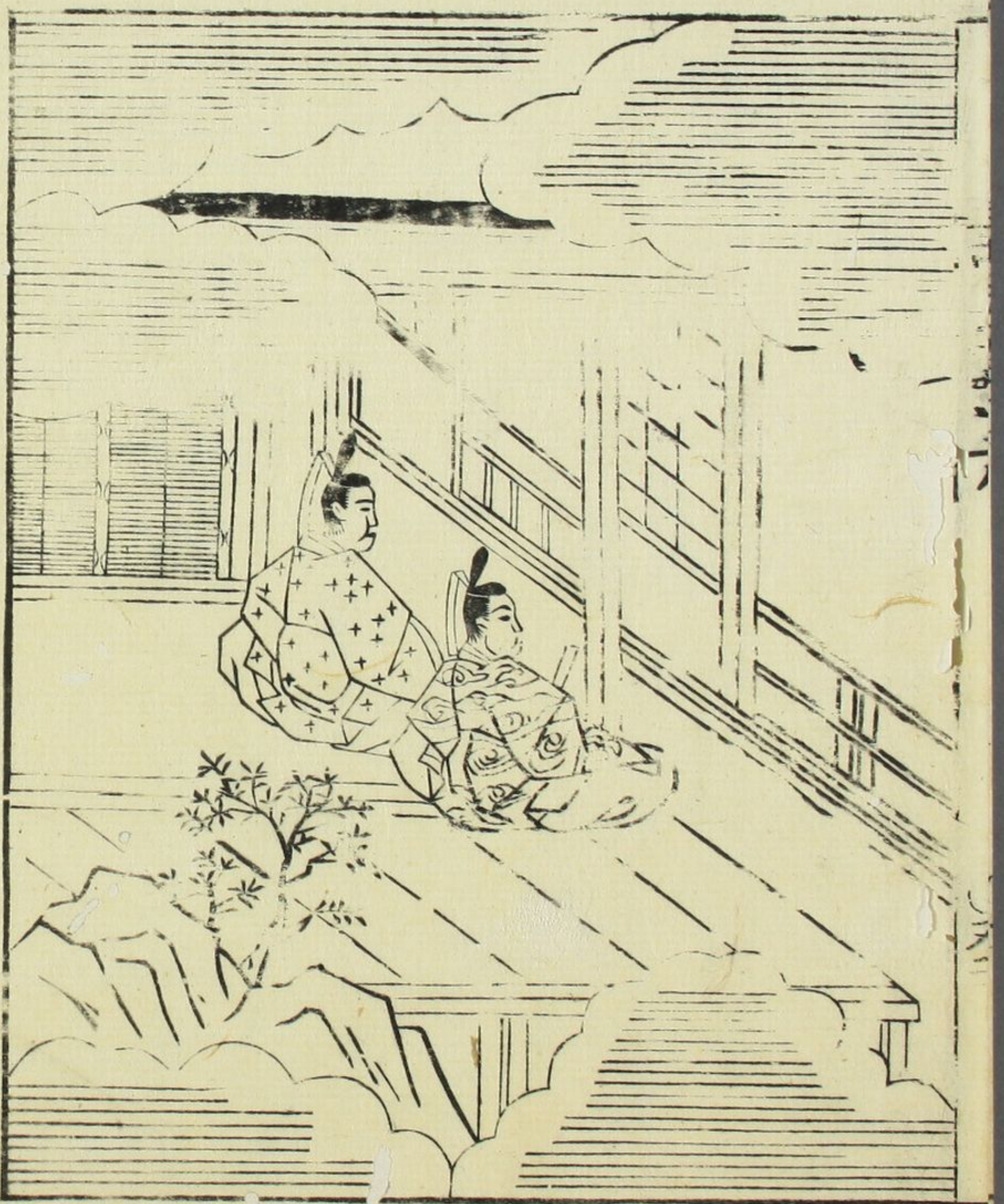
久安元年別見式目ふとまりれははる法所内會

おかりゆりそ承奉給く幸かかろりゆりぬかり物  
うそて益の後園基をさる指志中弁お隆おたお弁  
昨徳又お帳を改隆徳念ホ二取つうゆつりさるじうん  
右はそうらそ承弁お帳をつうゆつる事ハ別  
さるね大時代ふりて定きさるそそる念今  
てそるさるじうん終く久かてをゆりぬけ  
ありてらるし

花山院右のおとれ侍大七事といありとぬく  
わせりある物もあるるおびぬく打たりれ  
とど割一給つ大用はそ中いそまのり格勅念一

人よりらる物あるまはる人扱ふりねくそごうきり  
 大物に定結<sup>たいけつ</sup>のあめ<sup>あめ</sup>の難仕<sup>なんじ</sup>と書あてふあへに<sup>あへに</sup>  
 へくまへり或あふのり書<sup>かき</sup>合<sup>あひ</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
 打つてえ物といふべし物とまが物とあひさる  
 こと書あやしくもあはれとまひされ大何ゆも  
 ぞ只あれ程の今更あひさる程とゆねま  
 りひされどつれもきくあはれあはれとあはれ  
 くれども何男けな程<sup>げん</sup>あはれもは今更あはれ程の  
 うんやひされ程あはれあはれもあはれも  
 七事とせく毎日あはれとあはれとあはれとあはれと





わひつらに流るる中ふまきあぐら文書法にむとけり  
 ち人教ふつゝねる申途大くそのゆくまきぬあはれ  
 い事のあるとまうけられたるはまふなり一兵とねり  
 りてけ一兵一あはれあはれらうりねくそまきぐく多  
 けあ原のけふあひりりまきあひつぐねだき  
 ねぬまうて大幸あまきぞうやあまよとるあはれね  
 うそらあめくつああやよんあまうりんとあひあて  
 けうだれいごああ打あふくのねあまうりごむその  
 いごまのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

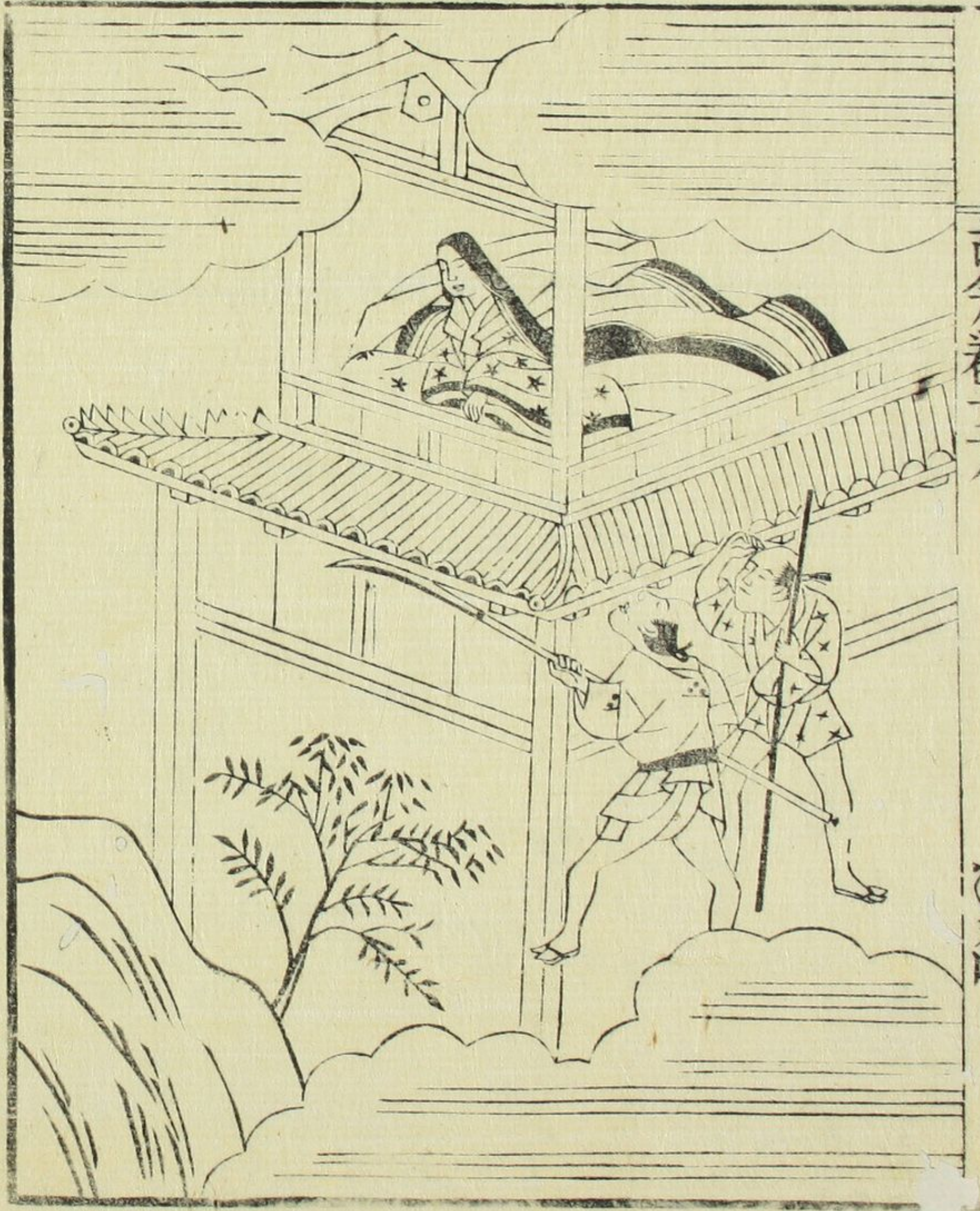
二  
 三

のん静を伴ふくしうのこ静をせんといふ日  
あゆむとせむるこそ世の中ひそめゆるゆるの好ま  
まはふんが後してのあつたつてこそものまはれ  
くれきまうこそあゆむと静を伴ふといふま  
といふかひの静をいひたまふるといふま  
今おせんたまふやうなるれよおのよをな  
がらあつたりせむる静をいひたまふるといふま  
男のりやへりてあつたり人の十廿費あつたり  
又いふ静の静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま

お静をいひたまふるといふま  
うれくよくよく静をいひたまふるといふま  
へくあつたり静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま  
いまよくよく静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま  
あつたり静をいひたまふるといふま

しあふつしは後よびならぬ言さればわもこのあひし  
 如らんも君若くして愛ふ事かしく打さしれりま  
 さへいそあつたそくあつた程つどそつゆりあや  
 どしあつたそつりたれどもあつたあひせりて貴  
 小ねぬあひのあつたさつもあひひりひびさうそつふ  
 ゆづりあひひるあつたあつたあつたあつたあつた  
 又うた程ふて貴とあつたあつたあつたあつたあつた  
 二貴よあねあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 さうあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた





物こもりふさぬれせんくさく又さかかへんあまのうらみ  
 てこそ貴おぬくぐりも後の或りて貴二貴うたに籠くよ  
 ともかたよおぬかうらぬおぬせて亦も貴よぬぬり  
 びよる今ハ手あくお振まうごとくおひくうたに籠はして  
 ちり一屋もみよりんとて亦余貴の穢れてちりぞれ  
 おせり侍<sup>まへ</sup>また女<sup>め</sup>年<sup>とし</sup>お後つくれるらん世してあり  
 くれど今くおひ付く後せしそさぞおひわたり  
 玄<sup>くろ</sup>ねよはぬしをね屋ぐてにわもの妻が中へは後  
 とりこそせりおたり<sup>た</sup>深<sup>ふか</sup>直<sup>ただ</sup>家<sup>か</sup>おさあよひひのをそそ  
 ゆーかおとちても世のわたりとあまの合さるひえ





中一十費の残をもちんぬを二月お十五日分ぬ  
あ斗帝してその程一日よ二つびの歩料とこひ候よ  
てまゝくゝあへん入用違つゝまんのらふとて免ぬまを  
りどあのおりどふたふとてあひくまうけしきり  
うて商賣志のおあさればあせうく所を座れえ  
ふあつたからあつたぞそれからあまうせまうと  
ハ候くあのおふの候りて下とあうげて世の人れま  
ごうごうああああて世のれああああああああ  
しくと十五日とせじりり今十六日ああああああ  
町あああああああああああああああああああ

念佛の切つそりて運ぶき候あつたれを在地の者  
たあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと  
ふゆ候してあうの歩料とあうとあうとあうとあうと  
そひ結縁しをれが候けりつあああああああああ  
もあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと  
切つて往生の候らうとあうとあうとあうとあうと  
て仁和寺のあああああああああああああああ  
あうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと  
坐合衆して候りあうとあうとあうとあうとあうと  
あうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと

其事の御方後よ

後名羽流は時存と申あてて此時よりあよ  
 天皇の冠者とのありのまじり件の時ふ出あり  
 とうふあは作りて恒よりかよれ又わらう城  
 うあしこも角は母が死ころを母の母れ抱とあは  
 かりくあてらん城を御しあぬりといひくわさ  
 かりり山のまき八方此あを作りて津海と存  
 て八し女下うらうがとて城まきりまじり天  
 皇冠者六代とうけつと城とて一系中つえけ  
 事ハあは隣國より人のあつまりまじり

事ハあはびあーかりとてりりの冠者あつり  
 ぞめ此水干にあら毛のじうまきとて見  
 志げとてれらにのやにひて竹笠とて  
 あり月毛の馬のちいさいのりて毎の目  
 山の上の家よりうらうけ終ちハあれりや  
 此者た鼓とたてとてとて人てとてや一け  
 終ハ馬やうくわりのうらうてりやれ板後  
 のとよのわつとてあはあはあはあはあは  
 ともよと目代たあはあはあはあはあは  
 の人あはあはあはあはあはあはあはあは

志いへりもありの武にへりやうもいひしめり  
天竺冠きりたるをあらへてまひしむあは  
いのちハ冠を馬より取りてさへくの徳宣  
てこねられたるのいふはまへんまへんまへん  
もらまらまらなまらけり月あいらさるとは  
るであらへりけりみゆりりりりりりりり  
につけてまへていさやいあつらり計り衣雲  
とねらた刀と持たさるる資財つくとさきのみ  
投げり奉賜りりりり冠をいれ我ハ親まらり  
柘弓をいりて額を親とちとちて打りりりり

ゆと院まへにたれあまきり神祇院よ御ま  
成下伴の冠をいりてゆ神海のおとてを  
まび水の面へあつらひ池面をいりて地よを  
られりりりりりりりりりりりりりりり  
紫のりりりりりりりりりりりりりりり  
ころりりりりりりりりりりりりりりり  
の律を能くお撲とせられりりりりりり  
池の面へ七八年あげすてりりりりりり  
てうたわがりりりりりりりりりりりり  
うくせめりりりりりりりりりりりりり

りや侍手ぬの者なりきりきりきりきりあるがくちりて  
おんもききききききききききききききききききききききき  
あは分めて天竺冠ぶぐの教まじりきりきりきりきりきりきり  
くり或ハ人ぬきいせせしりりりりりりりりりりりりりりりりり  
あすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
強念の修理を更時房部下のまへめて双六の掃負  
たりぬ命を河房位信七命をどききききききききききききききき  
しそひそ目うらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
小信信七命をきききききききききききききききききききききき  
と打りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

人目然やうううううううううううううううううううううううう  
おとりつきのありあつたにぬ命すききききききききききききき  
尚とやうく個とありききききききききききききききききききき  
あはとそぬ命をとりききききききききききききききききききき

建永六年十二月廿九日信深房此れ中江形ア房や  
いあ信まうれとやうききききききききききききききききききき  
方の名目つりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
とそ信まうれとやうききききききききききききききききききき  
とそそ又目つり信まうれとやうきききききききききききききき  
あげくりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

が云それ其の事申されん所におもひ申すは其の事申す  
ふふあつらんぞれはまゝなる事と申すは其の事申す  
る候可まれば月一の人のさうづらさうと申すは其の事  
船房をあらうらふ事申すは其の事申すは其の事申す  
目一の名づく候と申すは其の事申すは其の事申す  
多岐の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
めてわらうらひは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
りせき候先候は其の事申すは其の事申すは其の事申す  
ふをさうと申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
めり候は其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す

さきび次は其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
りてあまらればわらんふらふ事申すは其の事申すは其の事申す  
動て判取らうと申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
は法深房の揚ふ候と申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
風鳥あまらばと申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
九月一の候は其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
まへに候と申すは其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
判せと申すは其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す  
後候は其の事申すは其の事申すは其の事申すは其の事申す



てゆきくちやう只今れ算葉の紙成ぬあはれ  
 ふあうらうして西心ぬわい海りぬああ物  
 めいぐふふもむとひく皆あてあまなり  
 昔の魚人の又のゆうぬをまきり  
 又算葉作用光南海道小おのの時海紙ふあひ  
 くり用光を改よあらんするの時海紙ふ向く  
 ぬ久あ算葉とりて物よつうえせふあはまきり今  
 のうひやく紙位のへえよ言えんといふ言葉れあ  
 けりし心志づくれ命けをよ一世の雅声をえん  
 ちいぐ海紙わけるる方紙あましくうせり用光

室後のほあやあきく後臨相子次よどり時  
 もあま群紙も感紙あましく用光せゆりえり  
 渡紙の自流ととさうくわりとさうり紙あまぬ  
 あいかのめくれ海紙あましくあまのあま代り紙あ  
 わうのあまなり  
 南紙よ成人入紙大系紙あまて春日紙あまて供紙あ  
 とあひ登紙あまて南紙あましくあまのあま代り紙あ  
 親紙の願紙あまて南紙あましくあまのあま代り紙あ  
 と憤りそまてゆりあまのあま代り紙あまのあま代り紙あ  
 あまのあま代り紙あまのあま代り紙あまのあま代り紙あ



たりとバなるぞせとありしをひきたりて忍びあへず  
 ふまをせと信じて下してたり故に富樫郡の并流とて  
 て府人感涙をよめぬハ斯くたり故に其のあり南に  
 あそりてとれもしくと信じてのゆるみ故に下をく信じて  
 多々程は布施とてさきく多くあるのゆゑとて日  
 つけくおろりせりたるに其の故もておろりたるけり布  
 於物もぬらむひきてたり力も下りぬらりすて難  
 小逆さりにたれぬ馬のり興よありに難とていぬり  
 おそゆとて事とんぬあけまといつてと逆のゆる  
 も斯くさるるがごとくおろりのゆるみもあへりといふもた

て作らるるは法中まひりたれど何にめされ  
 ぞといひあがらば人つきて事たりたり法中法に  
 物ゆりんそ十二國縁のあり病と見ゆて悦とて  
 て教化されたりとるにゆてり大慈よあるゆ  
 ともくゆたたりとるにゆてりいふ所のゆた  
 らとてゆたたりとるにゆてりいふ所のゆた  
 て送るたりとるは法中お徳ゆたたりとるゆた  
 おゆりぬ次の自由事ア人ゆたゆたゆたゆた  
 事ゆたたりゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 事ゆたたりゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた

よとらぬくおつりなまらひそとせ長谷川ひくえん  
まばとやむとことと四て入るり消息まをり何  
きてふれははるの法教化をむて怒よ齋心れあ  
ふ人れがりりおひし事りりあしはめあ  
事し今ひくもはよりて悪んはむくとあせん事  
と難より入置悪がさるあ思はひるにゆり

いづれの比の事やああの家ぬ者あやうく集蓮の  
希とさるる一門のふよ火狐とりてゆりきりい門  
ふいひり一鬼まきさるやま今もすまゆらふや  
やこれらと取あてふぬま後又あつねとぬり

さたのてうく火狐とまゆりゆ事あやうくと花  
お披露あまをれた死生不知れ材人丸弾定一ていご  
りてかんとそとあうく事りて同家のかりえんをた  
いしやあやうか女房一人外よりきりあひうぬまあ  
んけおあめりとおそむあうくことの子細とさあ  
くやく盗人なるきりごりゆは門は怪てあつるがう  
ごうとあうくすまをゆがけ程は狐身て辱しめく  
ゆりまゆへ

後房大御を檢非違供別あれは白川は強盗な  
きりもあまよとくやうが考あて強盗とたたくひ

きゆるがたむとぬくて強盜の中よ海をれよ一たり  
 本多のうらわんまのあむんそんううてきかんと  
 かくまじりて物とをいふひりて強盜の形とて  
 むらりぐふあんな時よあむんそんううてきかんと  
 うまひかりぬきもあひくまむのれきふはねとて  
 物とけくい男にもあむんそんううてきかんと  
 かりぬきもあひくまむのれきふはねとて  
 男はぢりかひふよりのやわらんそんううてきかんと  
 ふなちとてううてきかんとおろのひとかりぬき  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま

案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 てまのどくにあんゆりたりぬらりぬとあむんそんうう  
 びひの老のゆらんあむんそんううてきかんと  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 へかりぬきもあひくまむのれきふはねとて  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま  
 案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま

案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま

案いぬ海とてあむんそんううてきかんと強盜のま

まうをれがうごひもなぐは内の人こそきりこさひく  
まゆりてはやうな御お終りなれど大程の遠ふあり  
毎お若かりなれば別あつくひそえはけ極と終り  
されば大程はせむらうれくあの中とせんごせまき  
くは先文よあやうさうありきり件の血おれ射り  
車宿とこがまうりなれどつがひお房お中お盗人  
この車と房とさうあしそまてお房とさうされん  
どろはしめくお房を成よなれ多りそ洋よ大納を  
あともやうと上福お房のまきゆがは程風のわら  
てえりんあうぬういひり重とてでいんもき

人おぬたわうてまの終つてせめられ多る六のあ  
方りくしてあがらおまのぬと終とさうされど血  
付と房お神とあやうそくつとあさうりて坂板と上  
てんるにさあぐの物をとりしあうりざりは男が  
つらにうのびむかぐまのまき終をままきり面  
飛つまきりるもあつた面と一ヶ形とくしてあをく  
強ひあけしりりさうち程たよあましく別人  
お作く自るお棟お樹とさきさるるものま市は  
てあもさうあさうさうとそさねがけとぬがせて  
めりてとあうらあうくおされ多り徳人んてわは遠と

とつり大七八斗水入れりたるくたけらるる  
かきとどくくしりたおとさくゆる女房へそそ  
きりひりしそし能事山の女盗人としていつそ  
ふらうた世ふもかゆやごゆきうとたごそ

中納言兼光は建久二年十二月廿八日小捨非違  
別番小畑く麻務とたゆにゆはありたるは  
の中倉よりいされ登のうせりたるは隣ありを  
接者かぬとこありたるもさつごまて麻物とほ  
かううせりた接者へきゆいもとりらしてそ  
ありとてふよととまわくハいぞうなゆと他人を

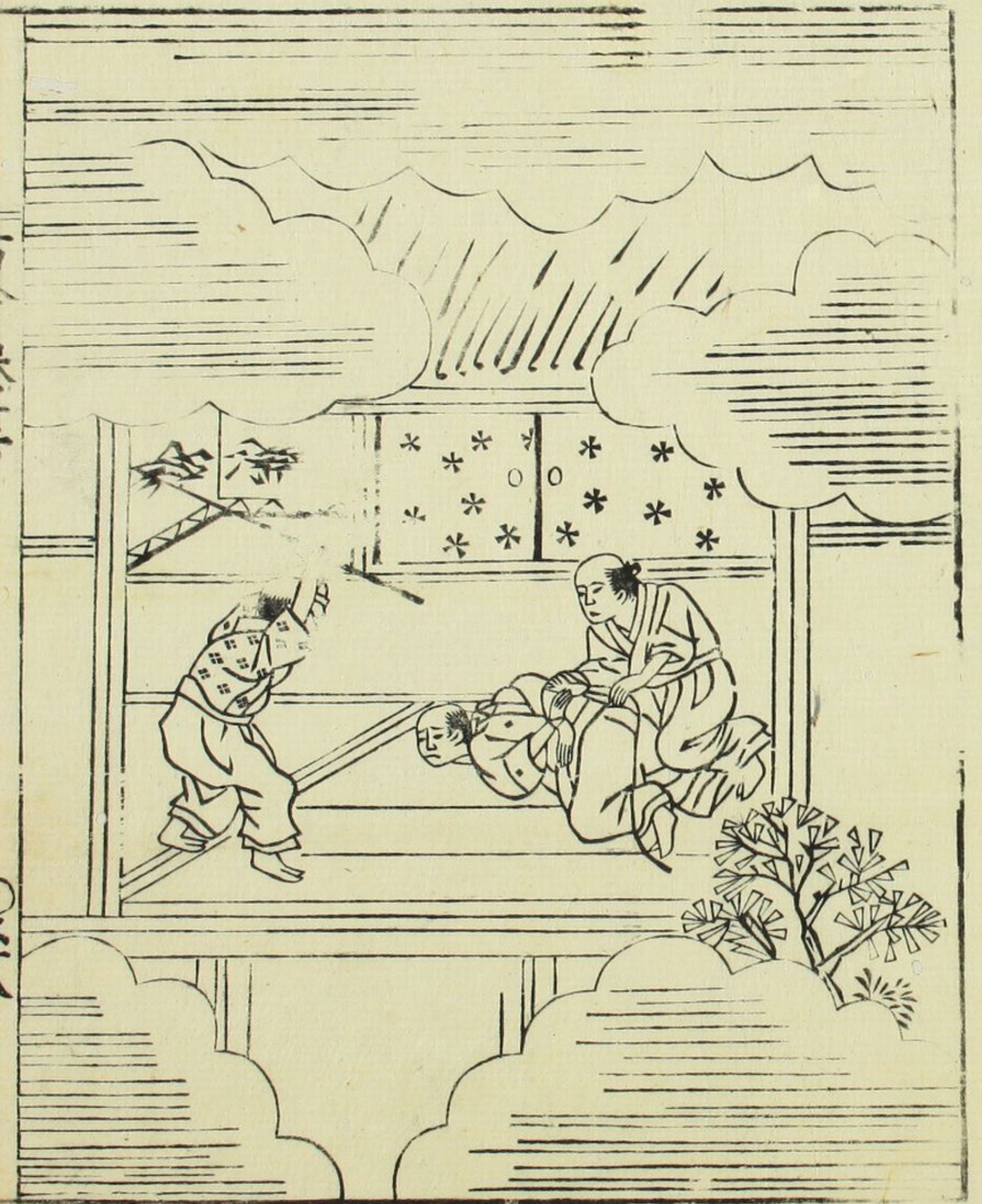
とそそゆんし疎しきれとゆとんしお理やとゆ  
まをれぬとまれし接者の折紙つうて大狸の門  
あふりあて内間まきりお福子ゆざりをゆり  
別番深とめりして接者へおお使へてい登を  
接者ふさるん下と作下しゆりせねと接者ゆ  
くららうらう何とていざりゆきととて実犯あり  
うららの身をおれくしてねとまきとぎるやさりて  
抄よととあられきりゆりゆりするらりしと  
白上座とのふりの上はゆらとまきり付春海のゆり  
接者へととりきりた接者ゆりとのまきりゆり

ふあひなきり懸佐おらあまどく近付て出米まのり  
たのこひひるの波西上た人を判くといをせきりいし  
懸助へ来る出米之織佐のぞくまうくば懸佐  
おろくま波中て懸助の出米とんまびくそなたあ  
いそめいさうくままで伺よといひてんやといふ  
上懸その時梅葉とてひさめ一ぢんごうをさりじ  
て魚てはくそく船のなよまそみかく懸佐あがゆ  
や中りあしけつくく止ぬぐの出米あなごあ  
くといふ海織入ものぞくくお向くく懸佐に  
さかひさきり海織が船よ幕川まのりてたて

つとてと仲よ懸佐おそ敷多くまあがー伺うくひ  
く上懸まがひらありて海織と射るるは海織  
くまのりて葉ととつとさきりひさめ身をひび  
て海ねれがお立わぐるお波の内のまひる矢つと  
つらんあんさうせりてあらわぐる目のあひと射て  
うらぶよいあせてさうは矢つとどのをさるは海織  
がさうさてまは波あてありおしそく四つりあは  
ゆくぞくぞくや上懸の候ぞうくをあおく付違  
の海ぞくは空く懸助とつられ叔あててそま  
めくあつて俊あてあれとめてはあまそびあする

ぞとていひつらむるに海ぞくおれくバ始よりさ  
 作れど希きふあやまらさるんおとてこころ  
 されまあり

後者羽流の耐交遊ハ節々強盜の張本あり  
 どり今津よ宿し海よりきりきりきり西面  
 の書紙つらりてわめむききりる存ぞてい草如く  
 此船よめくは物んぞれきの技奴ハ究竟のその  
 あくうめてい草とまねをむらよとくくらひく  
 いはなかめくきばは船よりと白雲がくくく城  
 ぞせ給ひくはとらえありきりそのとれけくめく





水を流すもあつりけるにぬきて  
いれぬ程のやうなれをさきへおつり  
はつりひきかれへん等もさるへ年暮れぬ  
半ば程とさるへおつりのまへへ  
さるへばさるへはなも西面のへ  
ぬの程大さへおつりつるう  
くはさるへそのはつりつる  
はつりつるにさるへおつり  
片はさるへおつりつるに  
つるさるへおつりつるに







首とつて大おまへおてりては法師があまのけり  
 てあつくりひつうとてそせりをれが書あひ  
 くりとてえんはまふ共のけりしむらふは  
 負ふりきりかして向よあつたをわづい  
 中しそひひつるやとていやくのけり  
 けりちくびやうんえんたりのくは  
 てかく程のちまひしせんむらり  
 或はよ偷盗入りきりあつては  
 五成打とめんそえんは成得ま  
 うりのぞれとりきるに盗人物  
 大おてりては

へくあつてくもとねだりては  
 さけ細の上よ片は唐皮へく  
 盗人何ぞあひつるせんつる  
 うる物とばねのどくは  
 めりつるなれだ物せか  
 まひんわがてしてま  
 中し細なりより盗人の  
 物なくひつるくは  
 て事作りつるは  
 お酒しと物しとた  
 たりひつるは

まいにつゝいふにいつるがごとく先づわづらひしる  
 口ゆく何の物もあひまらざるにわすれぬびよなり  
 ていづれとて灰まといせりやあつねくもはらへま  
 かりぬ合納あつねの成るべしとて其を以て後よ  
 らいひつゝど物なりとてやしていふそはあま  
 めのうふきとていふそはあつねの成るべしとて  
 ていづれとて灰まといせりやあつねくもはらへま  
 らるる水の物もあつねの成るべしとて其を以て後よ  
 らいひつゝど物なりとてやしていふそはあま  
 めのうふきとていふそはあつねの成るべしとて  
 ていづれとて灰まといせりやあつねくもはらへま  
 らるる水の物もあつねの成るべしとて其を以て後よ  
 らいひつゝど物なりとてやしていふそはあま  
 めのうふきとていふそはあつねの成るべしとて

つらん時へお保事くつとてつゝいふとていふ  
 のと人といふわづれとてあつねの成るべしとて  
 まゝに後なり  
 大なる後とていふとてあつねの成るべしとて  
 らるる水の物もあつねの成るべしとて其を以て後よ  
 らいひつゝど物なりとてやしていふそはあま  
 めのうふきとていふそはあつねの成るべしとて  
 ていづれとて灰まといせりやあつねくもはらへま  
 らるる水の物もあつねの成るべしとて其を以て後よ  
 らいひつゝど物なりとてやしていふそはあま  
 めのうふきとていふそはあつねの成るべしとて

先忠臣の由のふく人が強盗してついでに若衆を余  
とまらせしめて何のきんうらむとていふべし  
よそあく回着するにゆゑがきやう年ごうのあま  
の方より海賊よりあまよりその山ごらより一系が  
よそ強盗より一遠よりそのひらきんたより一系が  
つとくかほ守飛のあまより文のきばい世中よあま  
ふゆりばねもあく強盗もあまより打つて強盗するは  
世のあまより人れはまは事なれよ昔患うた  
と相とつて事あつていふとさあまもゆりたつて  
空しくうらめおされとんら然さじくありと国と

凡のりんぞれ年来のの程も強りんがあふれを  
のたえあふとつて章久あふれはえとくたあふも  
あふつをれれと強りして昔もあふ今も使願の  
願勢停止とつてあふとあふとあふとあふとあふと  
機もあふ打破く佛あふ作あふと一向願勢を  
とあふと後世の事とつてあふとあふとあふとあふと  
の源判友康仲とつてあふとあふとあふとあふとあふと  
人あふかとあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと

せきねを別おとく康仲がりせりりて章久がりせ  
 めくつらつがぶとくしひひく若方が一命とせり  
 ちとつられらる別のもちあふ余輩を誅めぬけい  
 とてふくしめをききんせりつて康仲真んま  
 一とひくまねてつひひり別おとく平ふとせり  
 ため一つふふまをたたくひぐあち切のり大あふり  
 されは六細を別よひ種と角へ入るるあふり  
 ちとふしとた種のものの中くつらとせり  
 あふえをせよあつらんと作しせられぬあふり  
 侍ゆりされて先しはちり康仲が懸けつらあふり

の別おとくありせりせられぬあふりて今ハ切て  
 一初あやまてあふりせられぬあふりて今ハ切て  
 るあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 わりすましくひとて一初あやまてあふりて今ハ切て  
 まねて別よひひぐあち切のり大あふり  
 たり切のりあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 年比使麻呂あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 と康仲はあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 ありあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

のりめくおづつらびとくやんぬ人成三千人始りて向  
 け下へ何中にも勝物と一始りんとりてさうご  
 みりて一と鞆そうばん一けとさうせえがり件の鞆そうばんとやけり  
 にへく亦も人の事わひがうてまたの始りひひぬ  
 のがれ迎むかへんぞろろとてあつてこれとておもて  
 ぬてつとさうせんとの中をさうさうとてあつひ  
 て空はくをさうふく一とつて根とのがさひり又  
 てつとたくとえのままとせえん時後ときくさくへん  
 のひとつて日書てりぬ初十節があつて門とて  
 とつてく十節のうらとてさうさうとてさうさう

ありぞあけまんとつて十節何やまなくお神  
 打ちあけ鳥あ帽子あ入り入くとさうさうとてさうさう  
 せぬやとつとつり鞆そうばんとせぬ一とあつてさう  
 と今おへおぬよとつと十節鞆そうばんとせぬつら  
 さう鞆そうばんぞとつとあつてさうさうとてさうさう  
 さうとつとつとつとさうさうとつとつとつとつと  
 満とつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 まれバ又男とつとつと女の独ひととつとつとつとつと  
 ぬりてつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

剣をとりやくやちたきとてゆら討まらうあつる若大  
 つとそへ入くあくあつめてがり十節のつれあつら  
 らぬもの後らうらひよらうらひぬとそいひ  
 別唐件が遊へかしてめくれぬ唐件はあす  
 くだりし唐件が中よふ言ふあつてゆーしこのあ  
 られしゆの併<sup>あひあひ</sup>あながたあつていゆあ平六のまじ  
 さま<sup>あひあひ</sup>あつてまふとたてぬあつてあつてあ  
 ちとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 大細云あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 一のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

時とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 只今の成割<sup>あつてあつて</sup>あつてあつてあつてあつてあ  
 さつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 一とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 若士のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 死ぬひてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 是もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 わせりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ



うけねづーも用途多ぶがひとりおめて布とびふ  
 て指さのんといふとかさういふとさういふと  
 きのあふそつーもあがり中へいささしてあてけり  
 一とねれがももらちらん事うあはさささささ  
 ださねでゆあ打あううさひとさうさうのあ  
 象その用途とらんといひてあまのんさあはせ  
 えんやああよめてわりんああああああああ  
 一用途とささささささささささささささ  
 うくいのささささささささささささささ  
 てさうあはさういさう酒大さあ一あささささ

とくあがりぬかふるさあ河原よりあうあうに子割の  
 始甲よあうつささささささささささささ  
 ぐひあひくあささささささささささささ  
 一あうり上下あさささささささささささ  
 いそささささささささささささささささ  
 一あはさささささささささささささささ  
 一人のあうささささささささささささ  
 一あさあ凡まのああさあささささささ  
 一あさささささささささささささささ  
 一あさささささささささささささささ  
 一あさささささささささささささささ

それより八極うも安堵とばかりしての御方と御方  
 とぞ徳大寺殿ふ程休の時と尊業つくりまうり  
 て内々の海濱あぐいあせりきさるゝそいゆぬ  
 が倍きうハコウくより武勇としくみるに御方の言  
 者もすくぢみさうぬぐ一そいし一たぬとけし後  
 望と回者一山崎ふい一討斬の志りくしぬきぬ  
 程よあやしくなのりえいとぬい何れそのいさかぬ  
 ゆしとたぬがゆきとあてやきぬれ平六はた力あえ  
 せうのまごめ終りぬらあやしくたさましくおてえま  
 しくせし討ふらえうたつけくゆくは物一はあて

衣よのこの鳥帽子とくろ男トくぬらぬは  
 ぬらぬとささたよきつけくろとさくまよとまか  
 ぎぬは隙物からいさで只たぬまのりう斗おてぬ  
 ぬぬいあうとゆくとぬぬふくこれがわられぬの  
 しくあやたれけいごいさぬ又まぬくまのいさ  
 ぬらぬとさあねばとぬとぬらぬと回者とぬ  
 一極のとたの料やあうらぬぬぬとらぬぬぬ  
 ぬふけえすきおくうらぬたぬがのうらぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



夕言ふ方糸井あくおまきすの

く海にれらりあへん

澄惠傍那のまご童あくゆるる時くわく  
らる傍るまぎんそよ敷とひるるに  
うせにたりいかに救きた足くもるる盗人のそり  
ありそ何この思よりもあつばる

あつばるのあつばる海へまきす

あまの浦れみえんかりぬ

い傍那の傍のそありくきるあの高よそを  
てゆきりばある盗へれりてやうりまは

てよ先取

ぬと人まあがらう海とやまきすらん

そくそとりのぞうとけりぬ

花山院の雲回日毎の山のそびとあまの人の

とみくれごころを縁津法除よみゆる

山守れひましあをれどくたしん

ぬと人ふしそりあまうすき

摺川れ惠心傍那の妹あまの危のりやれ  
盗入りきり物どもれあてあふれどあま  
うの紙やとぬしあまのや紙りあてあま



Handwritten characters at the top of the left page.

Handwritten characters at the top of the right page.

古今卷十二

十三



